

広陵町教育委員会だより

令和4年度 1月号

1月13日発行

広陵町教育委員会
北葛城郡広陵町南郷583-1

TEL0745-55-1001 文責・編集 植村



新しき 年の初めは いや年に
雪踏み平(なら)し 常かくにもが

1月の万葉集 巻19-4229 大伴家持
(新しい年の初めには、来る年も来る年も、雪を踏みならして、
いつもこのように賑(にぎ)わしく集まりたいものだ。)

癸卯(みずのと・う)にあたる今年を飛躍の年に!

年が改まって2週間が過ぎようとしています。

昨年は、コロナ禍の中、学校教育、子育て支援、生涯学習、スポーツ振興、文化財保存、図書館活動等の教育委員会における諸事業や様々な活動に、ご理解とご協力、そしてご支援を賜りましたことに心より厚くお礼申し上げます。今年も、昨年にも増してよろしくお願いいたします。

令和5年(2023年)は、十千十二支では癸卯(みずのと・う)にあたり、「癸(みずのと)」は十千の10番目で、生命の循環でいえば最後に位置し、次の生命を育む準備が完了した状態を表しています。「陰陽五行思想」では「水の弟」と表記し、これは



「水の陰」を意味しています。五行の「水」は静寂、堅守、停滞、冬の象徴で、「陰」は控えめや小さいといった意味ですので、「癸」は、小寒、閑静、渋滞といったことを表しているようです。要は、まだ固いけれど少し動きが出てきた状態といったところです。また卯(うさぎ)は十二支の4番目で、草木が地面をおおようになった状態を表しており、萌え出る春のイメージです。「陰陽五行思想」では「木の陰」に分類され、五行の「木」は成長、発育、誕生、春の象徴であることから「卯」は、控えめに成長することを表しています。

総合的にみて、「癸卯」は停滞した世の中に希望が芽吹き、花開く助走の年であるようです。これまで積み重ねてきた自身の力が試される年でもあるため、最後まで諦めずに希望を持ち続けることが道を拓く鍵になるようです。

新型コロナウイルス感染症は、未だ収束する状況ではありませんが、春には感染症の2類から5類に引き下げられるのではとされています。それを機会に様々な行事やイベントが3年前のような状態に戻るとともに、今年が上記に示したように最後まで諦めずに希望を持ち続けることで道が拓け、大いなる飛躍の年にしたいものです。



教育委員会関係団体の取組

『二十歳のつどい』を開催しました!

1月9日(月)の成人の日、広陵中央公民館かぐや姫ホールで令和5年広陵町「二十歳のつどい」を開催しました。

民法改正により、令和4年4月1日から成年年齢が18歳に引き下げられましたが、広陵ではこれまでと同じく、二十歳の皆さんを対象とした式典を「二十歳のつどい」という名称で開催しました。第8波となる新型コロナウイルス感染症が続いている中での成人式であり、今回も3密等を避けるための感染予防対策として、午前、午後の二部制での成人式でした。

午前に真美ヶ丘中学校区、午後に広陵中学校区の成人の皆さんを対象として、来賓の皆様も主催者側も極力出席者を控えた中での式典となりました。今年、町内で成人になられたのは394人で、町外も含めて、真美ヶ丘中学校区が210人中154人、広陵中学校区が184人中128人に参加していただきました。



オープニングイベントとして広陵金明太鼓の皆さんが、二十歳の皆さんの門出を祝して、勇壮かつリズムカルな「打てや囃(はや)さん」という曲の演奏をしていただき二十歳のお祝いへの花を添えていただきました。

式の進行は、一部は実行委員の川上さんと林さん、二部は森井さんと室田さんが司会者として緊張しながらも、スムーズに進めてくれました。



山村町長は式辞の中で、人生の指南を請う若者に老齡の物理学者アインシュタインが返した言葉である「成功する人になろうとするのではなく、価値のある人になろうとしてほしい。」を引用され、『『価値のある人』の意味するところは、自分の利益よりも社会全体の利益を優先して考える大人になってほしいということだと理解しています。』とメッセージを贈られました。その後、教育長の私がお祝いの言葉を、吉村議長が来賓祝辞として二十歳になった皆さんに熱い想いをメッセージにして贈られました。

二十歳の誓いでは、一部が花光さんから、「自分の限界を決めてしまわず、常に自分の可能性を信じ挑戦し続けることで、人は大きく成長することができると信じています。そして、**裏面へ**



自分の行動に責任を持ち、一人ひとりが社会の一員として常に歩み成長していくことを誓います。」という熱い想いを話してくれました。

二部の藤村さんからは、「自らが選択した道で『大人

の世界』の厳しさに打ちのめされることもあるそんな時は、大人の一步を踏み出した今日この日を思い出し、大人としての自覚と、自身の言動への責任を持ち、周りの方々への感謝を忘れず、私たち一人ひとりの持つ目標を達成できるよう日々精進します。」と新たな誓いを述べられました。

その後、小学校区ごとに分かれてのアルバムの記念撮影、そしてアトラクションとして、実行委員が取材・編集した恩師によるビデオメッセージが流れ、それぞれの先生方のメッセージに一喜一憂していました。広陵町で初めての「二十歳のつどい」は、コロナ禍の中での式でしたが、主催者として人生の節目を無事お祝いできたのが何よりもうれしいことでした。

西小学校で県小学校理科学習指導研究会が!

昨年12月2日(金)に、広陵西小学校で「奈良県小学校理科学習指導研究会」が開催されました。研究主題は「対話を通して、主体的に学習しようとする児童の育成～主に生活科・理科の学習を通して～」で、全校一丸となって2年間にわたって研究を進めてこられました。その成果の発表として、2年4組(生活科:たねのふしぎ)、3年1組(理科:電気で明かりをつけよう)、6年1組(理科:てこのはたらき)の公開授業がありました。

これらの公開授業では、これまでの教師が学習を主導するのではなく、子どもたち同士の対話を重視して意見交流し合う中で生じた「ずれ」から問いを作り、確かめていく授業が進められていました。

県内各地からたくさんの先生方が参観に来られ、はじめは子どもたちもかなり緊張していましたが、そのうちに授業に集中し、担任の先生の発問に対し、しっかりと考えた意見を答えたり、友だち同士で話し合ったりしていました。

公開授業後は、体育館でこれまでの研究についての指導助言と「新たな理科教育の創造に向けて」と題した文部科学省初等中等教育局の有本教科調査官の講演がありました。

西小学校の先生方には2年間の研究に感謝するとともに研究の成果を今後の授業に生かしてほしいと思いました。

いじめ予防出前授業を各校で!

昨年の2学期の間に、小学校5年生、中学校2年生を対象にした「いじめ予防出前授業」が行われました。奈良弁護士会より各校に弁護士が訪れ、「いじめは絶対に許されない」ということを弁護士の目線から話していただきました。



いじめられる側の心を決定的に壊してしまいかねないということを、実験を交えながら説明していただきました。

また、「ドラえもん」のキャラクターを使って、傍観者の行動がいじめの深刻化に大きな影響を与えること、いじめを直接止められなくても、いじめられる側に寄り添うだけでも大きな意味があること、それができる「しずかちゃん」のよう



な存在になってほしいということ伝えていただきました。そして、いじめにより深刻な結果が生じた現実の事件が紹介され、いじめが取り返しのつかない結果につながることを話していただきました。

子どもたちは、実験や身近なキャラクター、いじめの実例など視覚的に具体例を出して説明していただいたことで、その場を想像しながら真剣に考えることができたようでした。弁護士ならではの法律に触れた話もされ、子どもたちにとって自分自身や友達について振り返ることのできる良い機会となりました。

3年ぶりの教育講演会を開催しました!

2学期の終業式があった12月23日(金)の午後から、町内の学校・園の先生方を対象にした教育講演会をコロナ禍の中、3年ぶりに開催しました。

様々な保護者のニーズに応え、信頼を得ることは教員としての使命ですが、各校園では寄り添うべき保護者の対応について、トラブルを抱え悩んでいる教員も少なからずおられるのが現状です。そのような現状を少しでも軽減すべく、学校と保護者の間に生じるトラブルを研究してこられた、大阪大学名誉教授の小野田



正利先生に講演していただく機会をもちました。

「『保護者対応トラブルのステージが上がった!』～法的知識を基盤とした誠実な対応について～」と題した講演内容で、スイカをイメージした派手なジャケットを身につけての小

野田先生は、風貌はカンニング竹山、語りは武田鉄矢とおもしろおかしく自己紹介されたのち、自身がこれまで関わられてきた数々の事例を紹介されました。「トラブルはいつかは終わる。」「1000のクレームには100のトラブルが存在し、解決困難な事例に至るのは2つであり、何とかなるものだ。」「『子どものために』を第一に考えて対応することで必ず解決する。」また、法的な知識を基盤とした誠実な対応と「本を読むこと、思考すること、行動すること、このことが問題解決する秘訣だ。」と熱く語られていました。